

大館圏域定住自立圏共生ビジョン



平成30年3月

(令和5年3月改訂)

(令和6年9月改訂)

大館市・小坂町

目 次

1．定住自立圏の名称	
(1) 定住自立圏及び構成市町村の名称	1
2．圏域の現状	1
(1) 各地域の都市機能の集積状況	1
(2) 各地域の豊富な地域資源	3
3．圏域の将来像	4
4．定住自立圏共生ビジョンの期間	5
5．施策の体系	5
6．定住自立圏形成方針に基づき推進する具体的な取り組み	6
(1) 生活機能の強化に係る政策分野	6
ア 医療	6
(ア) 将来の地域医療を担う若者へのアプローチ	6
(イ) 初期救急医療体制の充実	7
イ 産業振興	8
(ア) 鳥獣被害対策の推進	8
(イ) 圏域の観光資源の磨き上げとプロモーション活用の推進	9
(ウ) 圏域内の観光拠点ネットワークの構築	10
ウ 環境	11
(ア) 3 R 関連環境イベントの実施	11
エ 教育	12
(ア) スポーツの振興	12
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	13
ア 地域公共交通	13
(ア) 地域公共交通ネットワークの構築	13
イ 移住の促進	15
(ア) 移住情報の発信・P R	15
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	16
ア 人材育成等	16
(ア) 職員の合同研修等の実施	16
7．大館圏域定住自立圏共生ビジョン策定懇談会	17
(1) 委員名簿	17

1. 定住自立圏の名称

(1) 定住自立圏及び構成市町村の名称

大館圏域定住自立圏(圏域重複型:中心市 大館市、近隣市町村 小坂町)

小坂町は、県境を越えた上十三・十和田湖広域定住自立圏の構成団体にもなっています。

2. 圏域の現状

(1) 各地域の都市機能の集積状況

圏域を構成する各地域における交通、福祉等の都市機能の集積状況は以下のとおりであります。

【大館市】

	定住自立圏の目指すべき都市機能	施設名
交通	● 幹線道路	国道 7 号、国道 103 号、国道 285 号、主要地方道大館十和田湖線、主要地方道比内大葛鹿角線、主要地方道比内田代線、秋田自動車道（二井田真中～小坂北）
	● JR 駅	JR 大館駅、JR 東大館駅、JR 白沢駅、JR 陣場駅、JR 十二所駅、JR 大滝温泉駅、JR 沢尻駅、JR 下川沿駅、JR 扇田駅、JR 早口駅
	● 高速バス	大館 盛岡、大館 東京
	● 空港アクセスバス	大館 大館能代空港
医療・福祉	● 地域がん診療連携拠点病院	大館市立総合病院
	● 救急指定病院	大館市立総合病院、秋田労災病院
	● 地域周産期母子医療センター	大館市立総合病院
	● 災害拠点病院	大館市立総合病院
	● 自治体病院	大館市立総合病院、大館市立扇田病院
	● 福祉施設	秋田県北部老人福祉総合エリア、大館市総合福祉センター、大館市比内福祉保健総合センター、大館市田代総合福祉センター
教育	● 大学・大学校	秋田看護福祉大学、秋田職業能力開発短期大学校
	● 中高一貫校	県立大館国際情報学院中学校・高等学校
	● 高等学校	県立大館鳳鳴高等学校、県立大館桂桜高等学校
	● 養護学校	県立比内支援学校
文化・スポーツ	● 文化ホール	ほくしか鹿鳴ホール（大館市民文化会館）
	● 図書館	栗盛記念図書館、花矢図書館、比内図書館、田代図書館
	● スポーツ施設	長根山運動公園、花岡総合スポーツ公園、ニプロハチドーム（大館樹海ドーム）、タクミアリーナ（大館市樹海体育館）、地域体育館、達子森野球場、比内体育館、高館公園テニスコート、扇田ふれあい公園テニスコート、田代野球場、田代体育館、田代スポーツ公園テニスコート
	● 博物館	大館郷土博物館

行政	● 国	秋田地方法務局大館支局、大館税務署、大館労働基準監督署、東北地方整備局能代河川国道事務所大館国道出張所
	● 裁判所	秋田地方裁判所大館支部、秋田家庭裁判所大館支部、大館簡易裁判所
	● 県	大館保健所
	● 市	大館市役所本庁舎、大館市役所比内総合支所、大館市役所田代総合支所
産業	● 工業団地	大館工業団地、大館第二工業団地、二井田工業団地、花岡工業団地、花岡第二工業団地、新館工業団地、小森山ミニ工業団地、羽貫谷地工業団地、岩瀬工業団地
	● 産業団地	釈迦内産業団地
商業	● 大規模商業施設	いとく大館ショッピングセンター、イオンスーパーセンター大館店、イオンタウン大館西、大館樹海モール

【小坂町】

	定住自立圏の目指すべき都市機能	施設名
交通	● 幹線道路	国道 2 8 2 号、主要地方道大館十和田湖線、東北自動車道、秋田自動車道（二井田真中～小坂北）
医療	● 民間病院	小坂町診療所
	● 町立病院	町立歯科診療所
福祉	● 福祉施設	小坂町福祉保健総合センター「ゆーとりあ」
文化・スポーツ	● スポーツ施設	小坂町交流センター「セパーム」、陸上競技場、野球場、屋内プール、テニスコート、向陽体育館、みんなの運動公園パークゴルフ場
	● 図書館	小坂図書館
	● 博物館	総合博物館郷土館
行政等	● 国等	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）金属資源技術研究所
	● 県	金属鉱業研修技術センター
	● 町	小坂町役場本庁舎、小坂町役場七滝支所、小坂町役場十和田出張所
産業	● 工業団地	三ツ森工業団地



新緑の十和田湖

（２）各地域の豊富な地域資源

各地域には、四季折々に多彩な表情が見られる自然や地域の伝統行事など固有の地域資源が存在します。

【大館市】

観光資源・祭り	伝統行事	特産品・食文化	その他
・ 忠犬ハチ公及び秋田犬 ・ 大館大文字まつり ・ 本場大館きりたんぽまつり ・ アメッコ市 ・ 比内とりの市 ・ ジャジャシコ祭り ・ 中野七夕 ・ 白神山系田代岳 ・ 大鮎の里ふるさとまつり ・ 田代名産たけのこ祭り ・ 五色湖まつり ・ たしろきのこ祭 ・ 秋田犬の里 ・ 藤の郷	・ 大館囃子 ・ 独鈷囃子 ・ 代野番楽 ・ 蛭沢獅子踊り ・ 山田獅子踊り	・ きりたんぽ ・ 枝豆 ・ 山の芋 ・ 比内地鶏 ・ とんぶり ・ ホップ ・ 葉タバコ ・ 根曲がり竹たけのこ	・ 大館曲げわっぱ ・ 秋田杉桶樽

【小坂町】

観光資源・祭り	伝統行事	特産品・食文化	その他
・ 十和田湖 ・ 小坂鉱山事務所 ・ 明治の芝居小屋「康楽館」 ・ 日本の滝百選「七滝」 ・ 紫明亭展望台 ・ 発荷峠展望台 ・ 笹森展望所 ・ 天使館 ・ 中小路の館 ・ 小坂鉄道レールパーク ・ アカシアまつり ・ 小坂七夕祭 ・ 小坂七滝ワイナリー ・ 小坂・鉄道まつり ・ クリスマスマーケット	・ 濁川の虫送り ・ 出羽神社権現舞	・ 桃豚 ・ ぶどう ・ 十和田湖ひめます ・ 小坂七滝ワイン ・ アカシアはちみつ ・ 根曲がり竹たけのこ ・ ぶどうジュース ・ 菜々の油 ・ かつラーメン	

3. 圏域の将来像

大館圏域定住自立圏では、構成する地域が古くから鉱山における深いつながりを持ち、「ひと」と「もの」などの交流が盛んに行われてきました。このつながりを維持し、地域が有する都市機能や多くの地域資源という地域特性をさらに磨き上げ、地域公共交通を始めとする暮らしに欠かすことのできない生活機能を圏域総体で確保し、住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができ、また、圏域における暮らしやすさや魅力の質的向上、広域観光連携などによる産業の活性化を図りながら、圏域内外を結ぶネットワークを強化することにより、当圏域への移住・定住、交流人口の拡大、人口減少の抑制を目指します。

上記を踏まえ、定住自立圏構想の考えに基づき「自立」するための経済基盤を培い、圏域全体としての魅力を高めていくため、圏域として次のような将来像を定めます。

将来像

「鉱山で磨いた匠と歴史を大切にし、次世代に夢つなぐまちづくり」

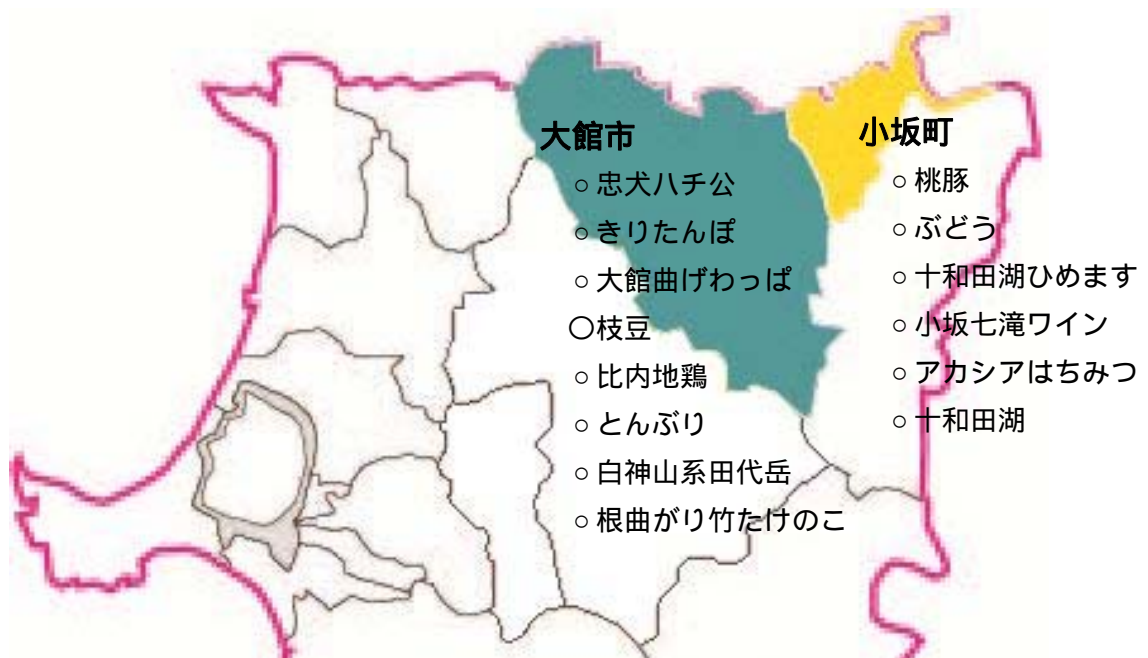
○ 将来推計人口等（国立社会保障・人口問題研究所 令和5年12月公表）

指標名	平成27年	令和2年	令和12年	令和27年
圏域人口	79,514人	74,017人	62,369人	46,593人
【大館市】	74,175人	69,237人	58,675人	44,182人
【小坂町】	5,339人	4,780人	3,694人	2,411人
高齢者人口 ^{65歳以上}	28,882人	29,296人	26,898人	22,718人
【大館市】	26,654人	27,151人	25,053人	21,337人
【小坂町】	2,228人	2,145人	1,845人	1,381人
高齢化率	36.3%	39.6%	43.1%	48.8%
【大館市】	35.9%	39.2%	42.7%	48.3%
【小坂町】	41.7%	44.9%	49.9%	57.3%

○ 目標値（圏域市町人口ビジョン）

指標名	平成27年	令和2年	令和12年 （目標）	令和27年 （目標）
圏域人口	79,514人	74,017人	64,457人	53,193人
【大館市】	74,175人	69,237人	60,237人	49,863人
【小坂町】	5,339人	4,780人	4,220人	3,330人
高齢者人口 ^{65歳以上}	28,882人	29,296人	27,006人	23,379人
【大館市】	26,654人	27,151人	25,150人	21,975人
【小坂町】	2,228人	2,145人	1,856人	1,404人
高齢化率	36.3%	39.6%	41.9%	44.0%
【大館市】	35.9%	39.2%	41.8%	44.1%
【小坂町】	41.7%	44.9%	44.0%	42.2%

大館市と小坂町の豊富な地域資源



4. 定住自立圏共生ビジョンの期間

令和5年度から9年度までの5年間とする。
ただし、毎年度所要の変更を行うものとする。

5. 施策の体系

政策分野	施策区分	施策
(1)生活機能の強化に係る政策分野	ア 医療	(ア)将来の地域医療を担う若者へのアプローチ (イ)初期救急医療体制の充実
	イ 産業振興	(ア)鳥獣被害対策の推進 (イ)圏域の観光資源の磨き上げとプロモーション活用の推進 (ウ)圏域内の観光拠点ネットワークの構築
	ウ 環境	(ア)3R関連環境イベントの実施
	エ 教育	(ア)スポーツの振興
(2)結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	ア 地域公共交通	(ア)公共交通ネットワークの構築
	イ 移住の促進	(ア)移住情報の発信・PR
(3)圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	ア 人材育成等	(ア)職員の合同研修等の実施

6. 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取り組み

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

ア 医療

(ア) 将来の地域医療を担う若者へのアプローチ

【形成協定】

医療職への理解を深め、将来の地域医療を担う人材を地域から育成するため、模擬医療体験などを通じた意識醸成に取り組む。

事業名	高校生を対象とした「フューチャードクターセミナー」、「病院見学会」の開催					実施地域
事業概要	・「フューチャードクターセミナー」 市内を中心とした県内高校の1・2年生を対象に開催。超音波メスによる模擬手術体験や内視鏡検査など、実際の医療機器を使用した模擬体験のほか、医師の役割や仕事などについての講義を行う。 ・「病院見学会」 市内高校で、医療分野への進学や就職を希望する高校1・2年生を対象として開催。病院施設の見学及び看護師や臨床工学技士など医療専門職から、医療の仕事についてレクチャーを行う。					大館市、小坂町
成果	・「フューチャードクターセミナー」 医師や医学生の指導による医療手技の模擬体験や講義受講により、医療職への理解を深め、将来医師をはじめとする医療職を目指す機会となる。 ・「病院見学会」 医療専門職との交流、職場体験、見学等を体験することで、大館市の地域医療への関心をより高めてもらうことができる。					
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	250	250	250	250	250	1,250
小坂町	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称、補助率等						
無し						
役割分担に係る基本的な考え方						
将来にわたり持続可能な医療提供体制を確保するために、地域における医療人材育成の役割を担っていく。						
成果指標	指標名	現状値 (R 5)			目標値 (R 9)	
	フューチャードクターセミナー参加生徒数	36 名			30 名	
	高校生見学会参加生徒数	27 名 (R2)			35 名	

(イ) 初期救急医療体制の充実

【形成協定】

圏域内の初期救急医療体制を充実させるため、大館市休日夜間急患センターの運営をはじめとした各種事業に取り組む。

事業名	初期救急医療体制の充実					実施地域
事業概要	圏域内の初期救急医療体制を充実させるため、大館市休日夜間急患センターの運営をはじめとした各種事業に取り組む。					大館市、小坂町
成果						
圏域内の両市町と医療機関が連携して初期救急医療体制を構築することで、圏域住民に利便性と安心感を与える。						
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	3,926	3,926	3,926	3,926	3,926	19,630
小坂町	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称、補助率等 無し						
役割分担に係る基本的な考え方 両市町が圏域内の初期救急医療に関する事業に連携して取り組む。						
成果指標	指標名		現状値（R 5）		目標値（R 9）	
	1日平均利用者数		12.1人		12.0人	



大館市休日夜間急患センター

イ 産業振興

(ア) 鳥獣被害対策の推進

【形成協定】

野生鳥獣による人や農林産物への被害を防止するため、圏域内における連携した被害防止対策を推進する。

事業名	鳥獣被害防止総合対策交付金事業					実施地域
事業概要	圏域内の農林業被害の軽減及び山村の機能を保全するため、鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律（平成19年12月21日号外法律第134号）に基づき、甲及び乙が策定した被害防止計画に定めた鳥獣被害対策を総合的に進める。					大館市、小坂町
成果						
・ 鳥獣被害の軽減に加え、減産や離農による耕作放棄地の拡大を抑制する。 ・ 捕獲従事者の労務負担の軽減や狩猟意欲の向上、次世代の捕獲従事者の確保に繋げる。						
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	12,881	12,881	12,881	12,881	12,881	64,405
小坂町	2,383	4,062	4,062	4,062	4,062	18,631
国県補助事業等の名称、補助率等						
鳥獣被害防止総合対策交付金（国） 補助率 定額、1 / 2						
役割分担に係る基本的な考え方						
連携市町がそれぞれ有する鳥獣被害対策の情報や知識を共有し、地域住民や関係者と連携を図りながら、圏域全体における被害の軽減や未然防止に取り組む。						
成果指標	指標名		現状値（R 6）		目標値（R 9）	
	捕獲従事者数（圏域）		126 人		126 人	

(イ) 圏域の観光資源の磨き上げとプロモーション活用の推進

【形成協定】

圏域の観光資源を国内外へ発信し、観光PRイベントをはじめとした各種プロモーション活動を推進する。

事業名	3 D連携交流拡大事業					実施地域
事業概要	物産協会及び圏域業者等と協力し、函館市等のイベントに観光ブースを設置し、新たな商品のテスト販売等を実施し、圏域の地場産品の育成とブランディングを行うほか、きりたんぼや比内地鶏、枝豆、小坂七滝ワイン等に代表される圏域の食や物産等の地場産品の P Rを行う。					大館市、小坂町
成果						
北海道の玄関口である函館市において、地場産品の展示販売をすることにより、圏域の認知度向上を図り、函館市に通ずる観光周遊ルートの一部に圏域が参画する体制を構築する。						
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	341	341	341	341	341	1,705
小坂町	105	105	105	105	105	525
国県補助事業等の名称、補助率等						
無し						
役割分担に係る基本的な考え方						
各地域が特有の地場産品(大館市は、きりたんぼ・比内地鶏・枝豆・大館曲げわっぱ、小坂町は、はちみつ、小坂七滝ワインなど)の磨き上げに取り組むとともに、各地域で行われるイベントの相互協力を図る。						
成果指標	指標名		現状値（ R 3 ）		目標値（ R 9 ）	
	函館市における情報発信イベント参加回数 / 年間		0 回		1 回	
	きりたんぼまつり来場者数		0 人		73,000 人	



小坂七滝ワイナリー



大館・小坂鉄道レールバイク

(ウ) 圏域内の観光拠点ネットワークの構築

【形成協定】

圏域内の観光拠点を結ぶネットワークを構築し、観光の目的地となるような魅力ある滞在型観光拠点の構築に取り組む。

事業名	圏域観光ネットワーク構築事業					実施地域
事業概要	圏域内で代表的な観光拠点のネットワークを構築するため、統一規格の案内板やデジタルコンテンツを充実させる等の整備を進めるとともに、「きりたんぼまつり」や「肉の博覧会 in おおだて」、「アカシアまつり」、「小坂七夕祭」などの開催を通じて、圏域内の観光拠点のPRを実施する。 また、景勝地、温泉、農家民宿、イベント等の各種観光を結ぶネットワークの構築とともに、グリーンツーリズムの充実など、体験型と滞在型観光の磨き上げに取り組む。					大館市、小坂町
成果						
きりたんぼまつり等のイベントに訪れた圏域外からの観光客が、圏域内の宿泊施設を利用し、複数日にわたり圏域内で観光を行うことで、宿泊施設の活性化や飲食店等の利用増に結び付けることができる。						
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000
小坂町	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	37,500
国県補助事業等の名称、補助率等						
無し						
役割分担に係る基本的な考え方						
統一規格等による観光客の受け入れ態勢の整備において連携を図り、情報発信について合同で実施する。						
成果指標	指標名		現状値（R 3）		目標値（R 9）	
	それぞれの市町における年 1 回の物産イベントの実施		0 回		2 回	
	宿泊者数（全体）		271,792 人		432,000 人	



本場大館きりたんぼまつり



小坂鉦山事務所

ウ 環境

(ア) 3 R 関連環境イベントの実施

【形成協定】

資源循環型社会形成のため、3 R（リデュース、リユース、リサイクル）の普及啓発に連携して取り組む。

事業名	3 R 推進事業（エコフェア）					実施地域
事業概要	自治体ブースのほか圏域内の環境関連事業所に出展を要請し、地域の住民などに対して、環境商品の展示や参加型イベント、リサイクル商品の販売を通じて、3 R の普及啓発を行う。令和8年度にはエコフェアが20回目となるため、記念シンポジウムを予定している。また、小型家電リサイクルについては、東京オリンピック・パラリンピック後も継続して推進するため、令和4年度にアフターメダルプロジェクトを開催。					大館市、小坂町
成果						
住民や事業者の環境意識の高揚により、廃棄物の発生抑制、資源の循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が軽減される。						
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	15	15	15	2,015	15	2,075
小坂町	15	15	15	1,015	15	1,075
国県補助事業等の名称、補助率等						
環境保全促進助成事業：(一財)自治総合センター 助成金：上限 200 万円						
役割分担に係る基本的な考え方						
構成地域は、古くから鉱山における深いつながりがあり、鉱山技術を活用したリサイクル産業が基盤産業となっていることから、環境先端地域として、住民、事業者、行政が連携して資源循環型社会を構築する。						
成果指標	指標名		現状値（R 3）		目標値（R 9）	
	ごみの排出量（全体）		27,700 t		23,227 t	



大館エコフェア（ニプロハチ公ドーム）

エ 教育

(ア) スポーツの振興

【形成協定】

圏域内のスポーツ振興のため、スポーツ施設（甲の直営施設を除く。）の相互利用をはじめとした各種事業に取り組む。

事業名	スポーツ施設の相互利用の推進					実施地域
事業概要	圏域内のスポーツ施設の相互利用を推進するため、施設の維持・管理等を行うとともに、圏域住民に対して利用案内等の情報を発信する。					大館市、小坂町
成果	圏域住民の利用拡大が図られるとともに、健康増進と産業活性化等に資する各種事業等において、交流促進が期待できる。					
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
大館市	208,279	224,215	224,215	224,215	224,215	1,105,139
小坂町	32,039	36,731	36,731	36,731	36,731	178,963
国県補助事業等の名称、補助率等						
無し						
役割分担に係る基本的な考え方						
各市町がそれぞれ費用を負担する。						
成果指標	指標名		現状値（R 5）		目標値（R 9）	
	利用人数（大館市）		338,567 人		338,567 人	
	利用人数（小坂町）		45,193 人		45,193 人	



タクミアリーナ（樹海体育館）



みんなの運動公園パークゴルフ場

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

ア 地域公共交通

(ア) 公共交通ネットワークの構築

【形成協定】

人口減少社会や高齢化社会に対応した持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に取り組む。

事業名		公共交通ネットワーク構築事業				実施地域	
事業概要		公共交通を軸とした観光振興や住民の移動需要等も視野に入れた検証を行い、より利用しやすい公共交通ネットワークの環境整備、より分かりやすい情報提供などを実施し、利用者数の維持に努める。 ・利用者への分かりやすい情報提供 ・圏域の観光振興と連携した利用促進活動 ・大館十和田湖線工事促進期成同盟会の推進による道路整備促進				大館市、小坂町	
成果							
通院、通学、買物、観光など一人一人の利用目的にかなう公共交通サービスが提供可能となるほか、観光振興等、地域活性化の起爆剤として利用できる。							
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計	
大館市	22,681	22,681	22,681	22,681	22,681	113,405	
小坂町	6,204	6,204	6,204	6,204	6,204	31,020	
国庫補助事業等の名称、補助率等							
【国庫補助制度】地域公共交通確保維持事業							
○地域間幹線系統確保維持費国庫補助金							
補助率 国 1/2							
【県補助制度】地方バス路線運行対策費補助金							
○地域間幹線系統確保維持費補助金							
補助率 県 1/2							
【市補助制度】大館市生活バス路線等維持費補助事業							
○地域間幹線系統確保維持費補助金							
平均乗車密度 5 人未満によるカット分							
【町補助制度】小坂町生活バス路線運行費等補助事業							
○生活バス路線運行費乗車密度カット補助金							
平均乗車密度 5 人未満によるカット分							
役割分担に係る基本的な考え方							
地域の実情に即した効率的で利用しやすい交通手段を実現することにより、圏域全体として利便性のよい地域公共交通ネットワーク化が図られる。							
成果指標	指標名		現状値（ R 3 ）		目標値（ R 9 ）		
	補助対象となる路線バス系統数		1 系統		1 系統 （現状維持）		
	大館～小坂間 輸送人員		67,710 人		67,710 人 （現状維持）		

事業名	公共交通勉強会の開催					実施地域
事業概要	路線バスを利用しにくい公共交通不便地域について、地域のニーズや需要に見合った多様な運行形態による交通手段の確保等、両自治体の抱える公共交通の課題や計画、協働事業の取り組みへの可能性について情報共有を図る。					大館市、小坂町
成果 圏域内の課題や今後の計画などを議論することで、圏域内の公共交通網の充実が期待できる。						
事業計画	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	
					→	
事業費 (千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計
	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称、補助率等 無し						
役割分担に係る基本的な考え方 それぞれの自治体が公共交通の課題等に対して共通の認識を持ち、その対策等を検討する。						
成果指標設定無し						



住民の足として欠かせない公共交通（秋北バス）

イ 移住の促進

(ア) 移住情報の発信・P R

【形成協定】

圏域外から圏域内への移住の促進を図るため、連携して移住施策に取り組む。

事業名	移住情報の発信・P R 事業						実施地域
事業概要	圏域への移住の促進を図るため、圏域の魅力や生活に関する情報や求人情報など暮らしに関わる情報を一体的に発信するとともに、移住希望者のニーズに応じた圏域内での生活体験ツアーを実施する。						大館市、小坂町
成果	移住情報を一体的に発信することで、効果的かつ効率的な情報発信が図られるとともに、圏域内での実際の生活を体験することで、圏域内の魅力や実生活の認識が深まり移住促進につながる。						
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計	
大館市	1,983	1,983	1,983	1,983	1,983	9,915	
小坂町	805	805	805	805	805	4,025	
国県補助事業等の名称、補助率等							
無し							
役割分担に係る基本的な考え方							
圏域の魅力を一体的に発信し、興味や関心を持たせるとともに、両地域をまたがった特色ある就業体験（農業、工業、サービス業）、暮らし体験（農家生活体験、冬の暮らし体験）などに参加してもらうことで移住へのハードルを下げ、長期滞在や二地域居住等へとつなげ、最終的には移住へと結びつける。							
成果指標	指標名		現状値（R 3）		目標値（R 9）		
	秋田県移住定住登録制度を経た移住者数		37 人		65 人		
	空き家バンク成約件数		41 件		35 件		
	空き家バンク登録件数		44 件		50 件		



首都圏での移住相談会



冬の生活体験ツアー

（３）圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

ア 人材育成等

（ア）職員の合同研修等の実施

【形成協定】

圏域内市町職員の資質の向上を図るため、合同研修等をはじめとする各種事業に取り組む。

事業名	職員の合同研修等の実施					実施地域	
事業概要	圏域で職員研修に係る情報を共有するとともに、圏域市町職員の資質の向上を図るための合同研修を実施する。					大館市、小坂町	
成果							
圏域市町職員の資質向上に資する機会の増大が図られる。							
事業費(千円)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	計	
大館市	600	600	600	600	600	3,000	
小坂町	0	0	0	0	0	0	
国県補助事業等の名称、補助率等							
無し							
役割分担に係る基本的な考え方							
両市町が連携して研修事業を行い、相互に必要な経費を負担する。							
成果指標	指標名		現状値（ R 3 ）		目標値（ R 9 ）		
	小坂町の合同研修の実施回数		0 回		3 回（単年）		



職員研修会

7. 大館圏域定住自立圏共生ビジョン策定懇談会

○委員名簿

所 属	氏 名	備 考
秋田職業能力開発短期大学校 住居環境科 准教授	中 田 智 大	
大館商工会議所 専務理事	木 村 勝 広	
大館まちづくり協議会 会長	斉 藤 留美子	
小坂町商業協同組合 理事長	浅 利 和 彦	
小坂町自治会総連絡協議会 会長	安 保 明	